

4

奄美群島の将来像の実現に向けた取組

4 奄美群島の将来像の実現に向けた取組

奄美群島の将来像を観光を通して実現するため、奄美群島広域事務組合と（一社）奄美群島観光物産協会（ぐーんと奄美）が連携して取組むべき観光施策を6つの方向性ごとに整理しました。

群島全体で取組むことで効率化や相乗効果の高い施策を「群島全体での主な取組」としています。

また、各島や各自治体で取組む観光施策のうち、群島全体の取組と連携することにより高い効果が見込まれるものについては「各島での主な取組」とし、参考となるようにあわせて整理しています。

奄美群島
広域事務組合



（一社）
奄美群島
観光物産協会



奄美群島の将来像の実現に向けて奄美群島全体で取組む6つの方向性

方向性1 奄美群島の地域ブランディングの強化

- [1-1 奄美群島の観光施策の方向性の設定]
- [1-2 観光資源の利活用の適正化]
- [1-3 観光産業と他産業との連携]
- [1-4 観光プログラムの開発]
- [1-5 情報発信]

方向性2 奄美の地域資源や観光拠点の魅力の向上

- [2-1 地域資源の保全・活用]
- [2-2 観光拠点や関連施設の整備]
- [2-3 奄美らしい景観の保全・活用]

方向性3 既存組織の体制整備や魅力的な人材の発掘・育成

- [3-1 観光推進組織の体制の強化や観光の関係者との連携]
- [3-2 観光に携わる人材の育成や連携の強化]
- [3-3 観光産業の質の向上]

方向性4 観光の現状分析のための情報収集と成果の活用

方向性5 奄美群島内外の移動の利便性向上

方向性6 隣接地域との連携の強化

群島全体での主な取組

参考
各島での主な取組

方向性1 奄美群島の地域ブランディングの強化

[1-1 奄美群島の観光施策の方向性の設定]

奄美群島の観光の現状や国内外の社会状況の変化を的確にとらえと共に、自治体と観光推進組織の連携強化を図り、奄美群島全体の観光に関する施策を検討します。

群島全体での
主な取組

- ・奄美群島の観光地としての魅力について協議する
- ・観光客のターゲットを設定し効果的な誘客活動を充実する
- ・DMO、カーボンニュートラル^{※4}、JSTS-D（日本版持続可能な観光ガイドライン）^{※5}の推進等の持続可能な観光地域づくりを推進する
- ・レスポンシブル・ツーリズム（責任ある観光）^{※6}への理解を促進する
- ・奄美群島エコツーリズムを推進する
- ・観光しまづくりプランの計画内容や進捗状況について定期的に見直す
- ・各島・自治体での観光推進財源の検討に向けた情報提供や勉強会を実施する

参考
各島での
主な取組

- ・各島・自治体の観光振興計画を継続的に推進する
- ・各島の状況に即したインバウンド対応を検討する
- ・ユニバーサルツーリズム^{※7}を推進する
- ・ワーケーション^{※8}を推進する
- ・ジオパーク^{※9}認定に向けた取組を推進する
- ・脱炭素社会の実現に向けて取組む

※4 二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、植林、森林管理などによる吸収量を差し引いて、温室効果ガスの排出を全体として実質的にゼロにすること

※5 持続可能な観光の推進に資するべく、各地方自治体や観光地域づくり法人（DMO）等が多面的な現状把握の結果に基づき、持続可能な観光地マネジメントを行うための観光指標

※6 国連世界観光機関が作成した、「責任ある旅行者になるためのヒント」に示された5項目にもとづき、観光客一人ひとりが、訪れる地域の自然や生態系に配慮し、その土地の慣習、マナー、地域住民の生活等を尊重した行動をとることで、持続可能な観光を推進するという考え方

※7 高齢や障がい等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できるよう、全ての人が楽しめるよう創られた旅行

※8 Work（仕事）と Vacation（休暇）を組み合わせた造語。仕事主体と余暇主体の2つのパターンがあります

※9 地球科学的意義のあるサイトや景観が保護、教育、持続可能な開発のすべてを含んだ総合的な考え方によって管理された、1つにまとめたエリア

[1-2 観光資源の利活用の適正化]

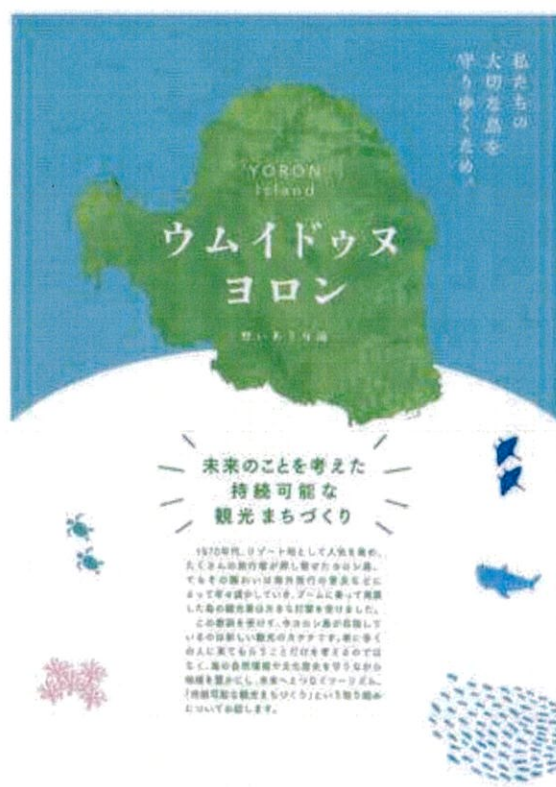
奄美群島の適正な観光のあり方を検討し、豊かな自然環境や島民の暮らしと観光に配慮したルールや仕組みを構築し、周知を図ります。

群島全体
での
主な取組

- ・ 自然環境保護のための利用ルールづくりの支援や周知を行う
- ・ 鹿児島県や市町村が作成した既存の動画やパンフレットを活用して観光マナーを旅行者に周知する
- ・ 周遊観光等を支援しオーバーツーリズム※¹⁰への対策を行う

参考
各島での
主な取組

- ・屋外での活動の際での危険な行動への注意喚起を行う
- ・豊かな自然環境を後世に引き継ぐため、島民だけでなく来訪者に対しても保全活用の意識醸成を取り組む



(一社)ヨロン島観光協会で周知している旅行者を対象としたマナーガイドライン

※¹⁰ 観光地全体又はその一部に対し、観光客の過度な集中が地域住民の生活や自然環境に悪影響を及ぼし、観光地の魅力低下にもつながること

[1-3 観光産業と他産業との連携]

農業等の観光以外の産業と観光産業が連携することで、奄美群島における観光産業の発展を促し、新たな価値を創出します。

群島全体 での 主な取組

- ・観光産業と他産業の連携や仕組みづくりを促進する
- ・島一番コンテスト等の開催により奄美群島内の特産品づくりを支援する
- ・島ちゅチャレンジ応援事業等の実施により、農作物や加工品等の付加価値を高めるための6次産業化を支援する
- ・宿泊施設や飲食店等で表示できる共通ロゴの作成等、奄美群島産の食材のブランド化を推進する

参考 各島での 主な取組

- ・奄美群島らしさを感じられる食を提供する
- ・人材不足に悩む地元中小企業等の働き方改革及び雇用者確保を総合的に支援する
- ・高齢農家の耕作支援を実施することで特産農産物を量的に確保し、6次産業化を図る
- ・農林水産業の体験プログラムの造成や地元食材を使った特産品、特産メニューを充実する



島内の店舗や直売所で売られている地場産野菜や季節の果物、島内の原材料から作られる加工品

[1-4 観光プログラムの開発]

奄美群島の多様なコンテンツを体験できるようにするため、様々なシチュエーションやテーマ、ニーズに対応した観光プログラムを開発します。

群島全体
での
主な取組

- ・あまみシマ博覧会開催などの着地型観光を継続・発展する
- ・地域の産業や集落行事に根差した体験型プログラムや旅行商品を造成する
- ・集落行事や伝統行事などを活用した地域住民と観光客の交流を促進する
- ・学会や研究会、視察等を支援する

参考
各島での
主な取組

- ・奄美群島内の研究機関等を活用した体験型教育観光を推進する
- ・スポーツツーリズムを推進する
- ・体験・滞在型観光の充実を図る
- ・地域資源を活用した観光コンテンツを造成する
- ・観光客と地元住民が交流をもてる環境を創出する
- ・文化遺産を活用した体験ツアーの造成を行う



あまみシマ博覧会パンフレット

[1-5 情報発信]

既存の情報を上手く活用しつつ、デザインや多言語化など情報をブラッシュアップしながら、奄美群島を訪れたいと思える情報を島外に様々な方法を通じて発信します。

群島全体 での 主な取組

- ・ 既存のホームページを生かした奄美群島の観光情報のプラットフォームを構築する
- ・ 奄美群島の情報を集約したパンフレット等を作成する
- ・ ホームページやパンフレットの多言語化を促進する
- ・ 大都市圏でのイベント等のプロモーションを強化する
- ・ 大都市圏における物産展の開催及び参加を行う
- ・ 世界自然遺産関連の情報を周知する
- ・ 島コーディネーターを活用して質の高い観光情報を発信する

参考 各島での 主な取組

- ・ ホームページや SNS 等を使って地域の情報発信を行う
- ・ 旅行会社等が企画・造成する旅行商品への費用助成やイベントコンベンション助成、バスツアー支援、学生スポーツ合宿助成等を行う
- ・ 観光ルートの検討やパンフレット等による広報を実施し、交流体験プログラムの開催を支援する
- ・ 島内の特産品を島外へ PR する
- ・ 案内看板の多言語化を行い、内容の刷新、媒体の整備を行う
- ・ 認知度の向上と責任ある旅行者の誘客を促進するため効果的なプロモーションを実施する

方向性2 奄美の地域資源や観光拠点の魅力の向上

[2-1 地域資源の保全・活用]

奄美群島の動植物や歴史文化などの既存の魅力的な資源を保全・活用し、新たな観光資源の発掘を行います。



群島全体 での 主な取組

- ・希少野生動植物の保護活動を支援する
- ・地域の産業や文化を生かした新たな観光資源を発掘する
- ・レスポンシブル・ツーリズム（責任ある観光）への理解を促進する〔再掲〕
- ・自然環境を保全しながら奄美群島国立公園を観光拠点として活用する
- ・あまみシマ博覧会開催などの着地型観光を継続・発展する〔再掲〕

参考 各島での 主な取組

- ・サンゴ等の学術的価値や希少性の高い動植物等を保全・活用する
- ・十五夜踊りや諸鈍（しょどん）シバヤのような祭礼をはじめとする地域の伝統行事の活用を通じて文化財を保全する
- ・既存の観光資源の魅力化を推進する
- ・サンゴやウミガメ、クロウサギ等の希少な動植物等の資源や生態系を保全する
- ・オニヒトデ等の駆除やモニタリング等によりサンゴ礁を保全する
- ・野生化したヤギから農作物に対する食害被害の防除を図る
- ・埋もれている観光資源の活用と保全を図る
- ・ジオパーク認定に向けた取組を推進する〔再掲〕

[2-2 観光拠点や関連施設の整備]

奄美群島内の観光の拠点となる公共施設等について、観光の視点で利便性や施設の魅力が高まる取組を進めます。

群島全体
での
主な取組

- ・観光関連の公共施設でのバリアフリー化を促進する
- ・交通拠点（空港、港湾）整備の際に観光やまちづくりの視点で利便性や空間の質が向上されるように提言する

参考
各島での
主な取組

- ・地域と連携した観光案内所や観光交流拠点を整備・運営する
- ・各島で統一したデザインの案内表示やサインの整備を推進する
- ・観光施設の整備や老朽化した施設の再整備を行う
- ・スポーツキャンプに伴う施設整備を推進する
- ・観光地域づくりのために基盤整備を実施する
- ・地域の宿泊施設を充実する
- ・観光地としての利便性向上のための施設整備を図る
- ・ターミナル施設の建設など世界自然遺産登録を契機とした観光客の対応をできるようにする
- ・サインの設置、トイレや休憩施設等の観光施設の整備や維持管理を行う
- ・交流人口の拡大と地域活性化を図る
- ・歴史文化を活用した地域を学べる探訪ルート等を整備する
- ・新たな観光客のニーズにマッチした観光施設へのリノベーションや新規整備を行う

[2-3 奄美らしい景観の保全・活用]

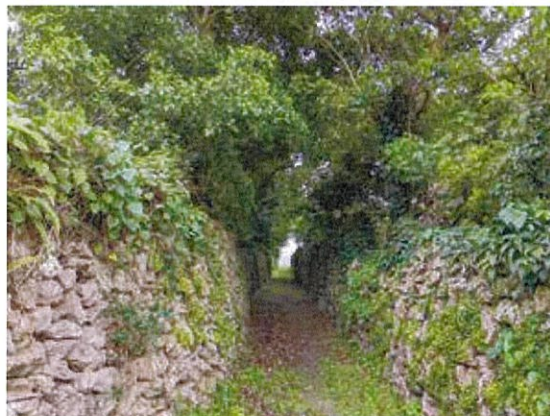
観光地としての需要増加に伴う無秩序な開発等により、貴重な観光資源である奄美らしい景観の喪失を防ぐため、島民の意識向上を図ります。

群島全体
での
主な取組

・ 景観に対する意識を醸成する

参考
各島での
主な取組

- ・ 景観条例や景観計画を策定し島らしい景観の誘導を行う
- ・ 街並み景観や良好な道路空間、沿道環境等を整備する
- ・ 自然や歴史文化のあるシマの景観を重視した整備や自然環境と共生した基盤づくりを行う
- ・ 景観の良好な保全を目指す重点地区を選定し、郷土学習や観光の場として活用する



今も残る集落の景観は、人々の暮らしの
移り変わりとともにつくられてきた貴重な
資源です。(上：加計呂麻島、下：喜界島)

方向性3 既存組織の体制整備や魅力的な人材の発掘・育成

[3-1 観光推進組織の体制の強化や観光の関係者との連携]

奄美群島での観光施策の中心を担う（一社）奄美群島観光物産協会の体制を強化し、観光に関わる人々の連携を進めます。



群島全体
での
主な取組

- ・ 研修等により（一社）奄美群島観光物産協会のスタッフの育成を進める
- ・ 専門家等による（一社）奄美群島観光物産協会との相談体制を充実する
- ・ （一社）奄美群島観光物産協会の旅行会社としての機能を強化する
- ・ 奄美群島の規模に即した大型客船等の団体旅行の受入体制を支援する
- ・ 奄美群島全体で観光産業の関係者（ガイド、宿泊施設、交通事業者、マリンスポーツ等）が全体やテーマ別で情報を共有する場（（仮称）奄美群島観光ミーティング）を設ける
- ・ 郷友会などの奄美群島出身者との連携を強化する

参考
各島での
主な取組

- ・ 市町村内の各種団体や人材の連携強化を推進する
- ・ 既存組織の機能を強化する
- ・ DMO 等の新たな観光推進体制づくりを図る
- ・ （一社）奄美群島観光物産協会等の広域組織と連携する
- ・ 島外の自治体や団体等との連携を強化する
- ・ 世界遺産の登録によって見込まれる観光客の増加に対して受入体制を強化し、拠点施設のリニューアル、都市圏での PR に取り組む
- ・ 地域の自然文化歴史を案内できるガイドの育成や島外の自治体への PR をする
- ・ 観光事業者の経営体制の強化や観光客の利便性向上等の受入環境、受入体制の整備を行う

[3-2 観光に携わる人材の育成や連携の強化]

観光ガイドのスキル向上や人材を発掘するための機会を設けるとともに、子どもから大人まで島民が観光への関心を高め、理解を促すための取組を進めます。

群島全体 での 主な取組

- ・ エコツアーガイド、奄美群島地域通訳案内士、島コーディネーター等を育成する
- ・ ガイドスキル向上のための研修会等を開催する
- ・ 認定エコツアーガイドの救急救命講習を継続する
- ・ インバウンドに対応するための語学力や接客技術向上のための支援を行う
- ・ 研修等により SNS 等を用いた奄美群島の情報発信のスキルアップを行う
- ・ 研修等により観光統計データの分析スキルを強化する
- ・ あまみシマ博覧会開催などの着地型観光を継続・発展する【再掲】
- ・ キャンペーン等の周知により島民の観光への関心や理解を高める
- ・ 出前授業等、子ども達に地域の価値や観光の仕事に興味をもってもらうための取組を行う
- ・ 勉強会等を開催し観光振興の地域へのメリットの理解を促す

参考 各島での 主な取組

- ・ 島民の観光客へのおもてなし意識を向上する
- ・ 農家民泊や農業体験等の受入体制を整備する
- ・ 島民の交通ルールの順守と運転マナーを向上する
- ・ 児童生徒の地域学習を通じた地元への意識を醸成する
- ・ 児童生徒を対象にした自然体験プログラム体験を実施する
- ・ 人材を確保し育成する
- ・ 世界自然遺産の登録で交流が目的化することのないよう、地域のあるべき姿について話し合う
- ・ 独自の自然、文化、歴史を学び、郷土愛の醸成と次世代の人材育成を行う
- ・ エコツアーガイドの育成を推進する

[3-3 観光産業の質の向上]

観光事業者に経営の効率化や生産性の向上についての理解を促し、就業環境の向上を目指します。観光従事者の満足度を高めるための取組を進め、観光客への満足度の向上や産業としての維持につなげます。

群島全体
での
主な取組

- ・ 効率的な経営や生産性向上のための観光産業の経営者に向けた勉強会等を開催する
- ・ エコツアーガイド、奄美群島地域通訳案内士、島コーディネーター等を育成する [再掲]
- ・ 津波等の災害時において観光客が安心して滞在できるための防災の勉強会等を実施する
- ・ 群島内の移住支援情報を一体的に発信し相談窓口を一元化する

参考
各島での
主な取組

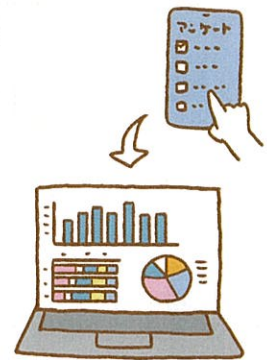
- ・ 観光従事者の仕事への満足度を拡充する
- ・ 観光従事者のサービスレベルの向上を図る
- ・ 人材不足に悩む地元中小企業等の働き方改革及び雇用者確保を総合的に支援する [再掲]



(一社) あまみ大島観光物産連盟が過去に実施した観光従事者を対象としたアンケート調査

方向性4 観光の現状分析のための情報収集と成果の活用

(一社) 奄美群島観光物産協会や各島の観光推進組織等による既存調査を活用しながら、観光についての情報を収集し、観光事業者も含めてデータを活用できる仕組みづくりを行います。



群島全体での 主な取組

- ・ 奄美群島観光振興基礎調査を継続して実施する
- ・ 観光客の動向を把握するための DX を活用した観光統計データを収集する
- ・ 観光従事者や島民を対象とした観光に関する意識調査を継続的に実施する
- ・ 島間の移動についての情報を把握する
- ・ 各種観光に関する統計情報の分析と結果を公開し、民間事業者による活用を促す
- ・ 研修等により観光統計データの分析スキルを強化する〔再掲〕
- ・ 既存の観光統計の収集と分析内容を統合する

参考 各島での 主な取組

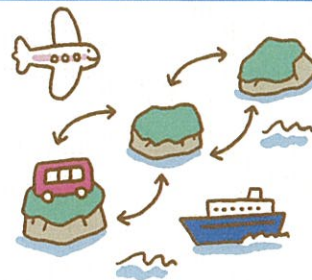
- ・ 観光動向を把握するための体制づくりや環境整備を行う



各島の観光推進組織が連携しながら実施している交流人口動態調査

方向性5 奄美群島内外の移動の利便性向上

奄美群島での移動の利便性向上のため、島外との交通手段（航空路線、フェリー航路）の充実や島内の交通手段確保のための支援に取組めます。



群島全体での主な取組

- ・観光利用の促進により一次交通の維持・充実を図る
- ・環境に配慮した交通手段の施設整備を促進する
- ・奄美群島の周遊観光を促進する
- ・バスロケーションシステム^{*11}等の二次交通情報の提供・支援を行う
- ・交通拠点（空港、港湾）整備の際に観光やまちづくりの視点で利便性や空間の質が向上されるように提言する〔再掲〕
- ・奄美群島全体で交通事業者による情報を共有する場を設ける

参考 各島での 主な取組

- ・各島が目指す観光振興の方針に沿った交通インフラ整備を推進する
- ・空港や港湾施設の改善や適切な維持管理を行う
- ・路線バス等の地域内交通網を維持、整備する
- ・道路ネットワークを充実する



奄美大島内の公共バスによる関連情報（GTFS形式^{*12}）の提供

^{*11} GPS等を用いてバスの位置情報を収集し、バス停の表示板や携帯電話、パソコンに情報提供するシステム

^{*12} 経路検索サービスや地図サービスへの情報提供のための世界標準の公共交通データフォーマット

方向性6 隣接地域との連携の強化

沖縄や屋久島等の奄美群島と隣接する地域との連携を強化し、観光地としての優位性を高めます。



群島全体での 主な取組

- ・「奄美・沖縄・屋久島」世界自然遺産を生かした取組を連携して実施する
- ・沖縄との広域周遊ルートを作成する
- ・沖縄県の観光推進組織等と連携した情報発信を行う
- ・観光に関連する民間事業者の交流を促進する
- ・音楽交流祭等の沖縄本島北部の山原（やんばる）と奄美群島の住民の交流を促進する
- ・琉球時代のテーマといった沖縄との文化的な連携を促進する
- ・沖縄等と連携した児童生徒向けの教育旅行プログラムを検討する

参考 各島での 主な取組

- ・奄美群島や沖縄と連携した広域観光ルートによる誘客を行う

5

今後の進め方

5 今後の進め方

(1) 観光しまづくりの推進体制

多様な主体による観光しまづくりの推進

奄美群島で観光しまづくりを推進する中で、奄美群島広域事務組合や（一社）奄美群島観光物産協会だけではなく、奄美群島内の12市町村、観光推進組織、観光産業に携わる方、観光産業以外の産業に携わる方、島民の全員がそれぞれの立場で観光を意識し、連携しながら取組を積み重ねることが重要です。

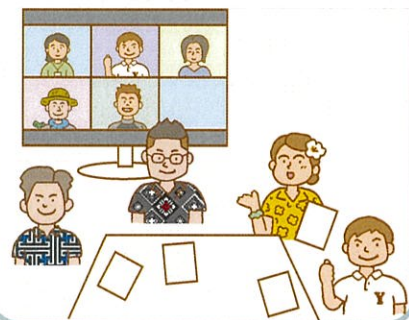


関係者が集まる場づくり

観光しまづくりを推進するにあたり、奄美群島広域事務組合と（一社）奄美群島観光物産協会が中心となって、本計画の周知も含めた情報共有、研修や勉強会、奄美群島の観光の方向性についての議論等を行うため、奄美群島全体で観光産業の関係者（ガイド、宿泊事業者、交通事業者等）が集まる場（（仮称）奄美群島観光ミーティング）を設けます。

オンラインを活用しながら定期的を開催し、社会動向や新しい仕組み、先進事例の共有など関係者全員の意識向上に繋がります。

（仮称）奄美群島観光ミーティング



(2) モニタリング指標

将来像の実現に向けた取組が正しく進んでいるのか判断し、改善していくため、観光しまづくりの各取組を評価するためのモニタリング指標が重要となります。

観光しまづくりの状況を評価するためのモニタリング指標として、既存の統計データ等を活用しながら設定します。

視点	指標	対象となる主な方向性
視点1 奄美群島の魅力	・ 来訪者の満足度 ・ 来訪者のリピーター率 ・ 来訪者の再来訪意向 ・ 来訪者の推奨度 ・ SNSのフォロワー数 ・ あまみシマ博覧会の掲載プログラム数	方向性1 奄美群島の地域ブランディングの強化 [1-1 奄美群島の観光施策の方向性の設定] [1-4 観光プログラムの開発] [1-5 情報発信] 方向性2 奄美の地域資源や観光拠点の魅力の向上 [2-1 地域資源の保全・活用] 方向性4 観光の現状分析のための情報収集と成果の活用
視点2 奄美群島の観光客	・ 入域客数 ・ 延べ宿泊者数 ・ 観光収入 ・ 来訪者の1人あたり旅行消費額	方向性1 奄美群島の地域ブランディングの強化 [1-1 奄美群島の観光施策の方向性の設定] 方向性2 奄美の地域資源や観光拠点の魅力の向上 [2-2 観光拠点や関連施設の整備] 方向性3 既存組織の体制整備や魅力的な人材の発掘・育成 [3-3 観光産業の質の向上] 方向性4 観光の現状分析のための情報収集と成果の活用
視点3 奄美群島内外の移動	・ 旅客船旅客数 ・ 定期航空路線旅客数 ・ 来訪者の公共交通機関の利便性の満足度 ・ 来訪者の1回の旅行で群島内周遊した人の割合	方向性4 観光の現状分析のための情報収集と成果の活用 方向性5 奄美群島内外の移動の利便性向上 方向性6 隣接地域との連携の強化
視点4 奄美群島で観光に携わる人	・ 観光従事者の満足度 ・ 産業別就業者数 ・ 登録・認定エコツアーガイド数 ・ 特例地域通訳案内士数 ・ 奄美群島観光ミーティングの開催回数	方向性1 奄美群島の地域ブランディングの強化 [1-2 観光資源の利活用の適正化] 方向性3 既存組織の体制整備や魅力的な人材の発掘・育成 [3-1 観光推進組織の体制の強化や観光の関係者との連携] [3-2 観光に携わる人材の育成や連携の強化] [3-3 観光産業の質の向上]
視点5 観光と島民の暮らし	・ 住民意識調査の満足度 ・ 農水産品の移出入貨物の数量 ・ 景観条例（又は計画）策定数	方向性1 奄美群島の地域ブランディングの強化 [1-1 奄美群島の観光施策の方向性の設定] [1-3 観光産業と他産業との連携] 方向性2 奄美の地域資源や観光拠点の魅力の向上 [2-3 奄美らしい景観の保全・活用]

(3) 推進スケジュール

群島全体で取組む各施策の実施スケジュールについて、概ね短期（1～2年）、中期（3～5年）、長期（5年以上）の3つの期間を設定し、どの時期に実施するか目安を下記に整理しました。

方向性	群島全体での取組	実施スケジュール		
		短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (5年以上)
方向性1 奄美群島の 地域ブラン ディングの 強化	1-1 奄美群島の観光 施策の方向性の設定	・奄美群島の観光地としての魅力について協議する ・観光客のターゲットを設定し効果的な誘客活動を充実する ・DMO、カーボンニュートラル、JSTS-D（日本版持続可能な観光ガイドライン）の推進等の持続可能な観光地域づくりを推進する ・レスポンスブル・ツーリズム（責任ある観光）への理解を促進する ・奄美群島エコツーリズムを推進する ・観光しまぐりプランの計画内容や進捗状況について定期的に見直す ・各島・自治体での観光推進財源の検討に向けた情報提供や勉強会を実施する		
	1-2 観光資源の利活 用の適正化	・自然環境保護のための利用ルールづくりの支援や周知を行う ・鹿児島県や市町村が作成した既存の動画やパンフレットを活用して観光マナーを旅行者に周知する ・周遊観光等を支援しオーバーツーリズムへの対策を行う ・観光産業と他産業の連携や仕組みづくりを促進する		
	1-3 観光産業と他産 業の連携	・島一番コンテスト等により奄美群島内の特産品づくりを支援する ・島ちゅチャレンジ応援事業等の実施により、農作物や加工品等の付加価値を高めるための6次産業化を支援する ・宿泊施設や飲食店等で表示できる共通ロゴの作成等、奄美群島産の食材のブランド化を推進する ・あまみシマ博覧会開催などの着地型観光を継続・発展する		
	1-4 観光プログラム の開発	・地域の産業や集落行事に根差した体験型プログラムや旅行商品を作成する ・集落行事や伝統行事などを活用した地域住民と観光客の交流を促進する ・学会や研究会、視察等を支援する		
	1-5 情報発信	・既存のホームページを生かした奄美群島の観光情報のプラットフォームを構築する ・奄美群島の情報を集約したパンフレット等を作成する ・ホームページやパンフレットの多言語化を促進する ・大都市圏でのイベント等のプロモーションを強化する ・大都市圏における物産展の開催及び参加を行う ・世界自然遺産関連の情報を周知する ・島コーディネーターを活用して質の高い観光情報を発信する		

方向性		群島全体での取組	実施スケジュール		
			短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (5年以上)
方向性2 奄美の地域 資源や観光 拠点の魅力 の向上	2-1 地域資源の保 全・活用	・希少野生動植物の保護活動を支援する ・地域の産業や文化を生かした新たな観光資源を発掘する ・レスポンシブル・ツーリズム（責任ある観光）への理解を促進する [再掲] ・自然環境を保全しながら奄美群島国立公園を観光拠点として活用する ・あまみシマ博覧会開催などの着地型観光を継続・発展する [再掲] ・観光関連の公共施設でのバリアフリー化を促進する ・交通拠点（空港、港湾）整備の際に観光やまちづくりの視点で利便性や空間の質が向上されるように提言する ・景観に対する意識を醸成する			
	2-2 観光拠点や関連 施設の整備				
	2-3 奄美らしい景観 の保全・活用				
方向性3 既存組織の 体制整備や 魅力的な人 材の発掘・ 育成	3-1 観光推進組織の 体制の強化や観光の 関係者との連携	・研修等により（一社）奄美群島観光物産協会のスタッフの育成を進める ・専門家等による（一社）奄美群島観光物産協会との相談体制を充実する ・（一社）奄美群島観光物産協会の旅行会社としての機能を強化する ・奄美群島の規模に即した大型客船等の団体旅行の受入体制を支援する ・奄美群島全体で観光産業の関係者（ガイド、宿泊施設、交通事業者、マリンスポーツ等）が全体やテーマ別で情報を共有する場（仮称）奄美群島観光ミーティング）を設ける ・郷友会などの奄美群島出身者との連携を強化する ・エコツアーガイド、奄美群島地域通訳案内士、島コーディネーター等を育成する ・ガイドスキル向上のための研修会等を開催する ・認定エコツアーガイドの救急救命講習を継続する ・インバウンドに対応するための語学力や接客技術向上のための支援を行う ・研修等によりSNS等を用いた奄美群島の情報発信のスキルアップを行う ・研修等により観光統計データの分析スキルを強化する ・あまみシマ博覧会開催などの着地型観光を継続・発展する [再掲] ・キャンペーン等の周知により島民の観光への関心や理解を高める ・出前授業等、子ども達に地域の価値や観光の仕事に興味をもってもらうための取組を行う ・勉強会等を開催し観光振興の地域へのメリットの理解を促す ・効率的な経営や生産性の向上のための観光産業の経営者向けの勉強会等を開催する ・エコツアーガイド、奄美群島地域通訳案内士、島コーディネーター等を育成する [再掲] ・津波等の災害時において観光客が安心して滞在できるための防災の勉強会等を実施する ・群島内の移住支援情報を一体的に発信し相談窓口を一元化する			
	3-2 観光に携わる人 材の育成や連携の強 化				
	3-3 観光産業の質の 向上				

方向性	群島全体での取組	実施スケジュール		
		短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (5年以上)
方向性 4 観光の現状分析のための情報収集と成果の活用	・奄美群島観光振興基礎調査を継続して実施する			
	・観光客の動向を把握するための DX を活用した観光統計データを収集する			
	・観光従事者や島民を対象とした観光に関する意識調査を継続的に実施する			
	・島間の移動についての情報を把握する			
	・各種観光に関する統計情報の分析と結果を公開し、民間事業者による活用を促す			
方向性 5 奄美群島内外の移動の利便性向上	・研修等により観光統計データの分析スキルを強化する [再掲]			
	・既存の観光統計の収集と分析内容を統合する			
	・観光利用の促進により一次交通の維持・充実を図る			
	・環境に配慮した交通手段の施設整備を促進する			
	・奄美群島の周遊観光を促進する			
方向性 6 隣接地域との連携の強化	・バスロケーションシステム等の二次交通情報の提供・支援を行う			
	・交通拠点（空港、港湾）整備の際に観光まちづくりの視点で利便性や空間の質が向上されるように提言する [再掲]			
	・奄美群島全体で交通事業者による情報を共有する場を設ける			
	・「奄美・沖縄・屋久島」世界自然遺産を生かした取組を連携して実施する			
	・沖縄との広域周遊ルートを作成する			
	・沖縄県の観光推進組織等と連携した情報発信を行う			
	・観光に関連する民間事業者の交流を促進する			
	・音楽交流祭等の沖縄県北東部の山原（やんばる）と奄美群島の住民の交流を促進する			
	・琉球時代のテーマといった沖縄との文化的な連携を促進する			
	・沖縄等と連携した児童生徒向けの教育旅行プログラムを検討する			